

審査の結果の要旨

氏名 妻 ソンイ

論文題目 病院に見る機能の分散化による部門構成の変化に関する研究

本論文は、病院建築計画分野において 1990 年代に「患者サービス」、「患者アメニティ」といった概念が注目を浴び始めることにより行われた様々な試みの中で、以前は医療提供側の論理であるとされていた病院機能の中央化が近年、患者サービスのために病院機能が分散化されていることに着目し、病院機能の分散化が病院の部門構成にどのような影響を与えているかを明らかにすることを目的としている。

本論文は全7章で構成される。

第1章では、本論文の背景 および研究の目的、既往研究と本研究の位置づけ、論文の構成を明らかにしている。

第2章では、病院建築に変化をもたらす要因を人口構造の変化、医療制度の変化、疾病構造の変化、医療技術の発展などといった医療環境の変化の側面から示した。また、病院をとりまく医療環境の変化が病院建築計画分野にどのような影響を与えてきたかを既往研究に示されている内容を基に整理した。

第3章では、調査対象の病院に見る時代別変化を面積の視点から述べた。本研究は日本の病院5件、韓国の病院2件を対象にしている。本章では調査対象病院の選定の基準（竣工されてから一定の時間が経ち、現地で建て直された病院）や、選定された調査対象病院の概要を示し、調査・分析の方法を明らかにした。分析の方法としては、調査対象病院の面積、1床当たり面積、部門別面積構成比を中心とし、時代別の病院建築の特性を面積の視点から明らかにしている。面積の視点から分析を行った結果、調査対象病院の新旧病院での部門別面積構成比には大きな変化は現れなかったものの、部門別面積、1床当たり部門別面積は新病院のほうで面積が大幅に増加していることがわかった。

第4章では、病院の部門の分類基準である病棟部、外来部、診療部、供給部、管理部の5つの部門の中で、病院の中核の部門である「病棟部」、「外来部」、「診療部」での機能の分散化の傾向を明らかにした。

病棟部は「病室部分」、「患者諸室」、「看護諸室」、「機械室」、「EVコア」に機能を分類し、病棟部と性質が異なる外来部と診療部は「検査・治療機能」、「診察機能」、「病棟機能」、「供給機能」、「管理機能」に分類して分析を行った。

病棟部では「病室部分」、「患者諸室」、「看護諸室」で機能の分散化の傾向が著しく現れているのが確認できた。その原因として、病室タイプの変化、分散トイレの拡大、医療スタッフのコミュニケーション空間の拡充などが挙げられる。

外来部では「検査・治療機能」、「管理機能」で大きな変化が現れた。

「検査・治療機能」は 過去には診療部内に設けていた検査室、治療室などが外来部に吸収・分散配置されたためであると考えられる。外来部で「検査・治療機能」の増加の原因を類型化すると①旧病院では診療部にあった機能が外来部に流入されたため②旧病院では診療部にあった機能が外来部と診療部の両方に設置されたため③新しい診療科が登場したためである。「管理機能」は 外来部の診療科が専門化されることにより、診療科内に検査室が配置される。このことにより外来部が拡張し、これに従い管理機能が増加していると予想される。

「診療部」では「検査・治療機能」と「管理機能」の分散化の傾向が著しく現れている。その理由として、診療部の診療科は時代の流れと共に多様化している診療科が挙げられる。

第5章では、調査対象病院の中で2件の病院に対し、病院の経年的視点から見た病院機能の分散化の傾向を明らかにした。旧病院の竣工当時、解体直前、新病院の竣工の3時点での機能の分散化について分析を行った。

その結果、外来部での経年的変化が最も著しいことがわかった。また、一旦建てられた病院では環境の変化に対応することが難しく、病院では増築や、病床数の増床や減床、諸室の用途変更などを繰り返しながら対応していることがわかった。この2つの事例を分析することから病院は常に変化し、部門内の変化や変更に対応できる計画が大事であることがわかった。

第6章では、病院機能の分散化による部門配置の変化の可能性について述べた。

各部門で現れている機能の分散化は部門の配置や構成にも影響を与え、変化が現れる可能性があることから分析を行った。その結果、既存の病院では患者が外来部にある診療科を訪れても検査のために診療部まで移動する必要があったが、最近では外来部の診療科が専門化・センター化することにより、診療部まで行く必要がなくなっている。こういった場合、既往研究では外来部と診療部が垂直的に分離されて配置されるのは非論理的であったとされていたのが、現在には再考の可能性があると示している。

第7章では、以上をまとめ、病院に見る機能の分散化の傾向を明らかにし、機能の分散化による部門構成の変化の可能性を考察した。

以上のように本論文は、医療環境の変化による病院での変化に着目し、その変化の様相の1つとして、「病院機能の分散化」が進んでいることを明らかにした。

今まで病院で成長と変化が繰り返して現れているとの可能性を示した研究はなされつづけられてきたが、病院の変化を「病院機能」の視点から分析を行った研究はなかったことから、本研究に意義があると判断される。

このような理由から、今後の病院建築計画分野において方向性を示唆する研究として、建築計画学の発展に大いなる寄与となりうるものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。